

研修参加報告

(創 世)

<研修目的>

2月の会派研修に続きリニューアルされた日本橋にある「にほんばし島根館」に伺い東京島根県事務所の移住・就職相談員の方に現状と安来市における今後の対策と課題について伺う。午後から翌日までは日本自治創造学会が開催する研究大会に参加し「人生100年」となる今後の町づくりについて調査研究を行う。

<研修概要一覧>

研修月日	研修施設	研修内容
平成30年 5月10日	にほんばし島根館	UI ターンの現状と対策
	明治大学アカデミーホール	日本自治創造学会 研究大会 「人生100年時代の地域デザイン」
5月11日	明治大学アカデミーホール	日本自治創造学会 研究大会 「人生100年時代の地域デザイン」

*日本自治創造学会 研究大会参加者 780名

<研修概要報告>

1. UI ターンの現状と対策

●講 師： 島根県東京事務所 島根定住アドバイザー 石田 静男 氏

●場 所： にほんばし島根館

●概 要： 首都圏における島根県へのUI ターンの現状と今後の取り組みについて

●考 察：島根県の東京事務所は都内の大学を回り就職相談に歩いていただいていることには大変感謝いたしました。高校生の「しまね留学」に興味を持たれる方が多いとのことでしたが、寮などの管理された住むところが少ないという欠点がありなかなかうまくはいかないとのことでした。安来市も2校留学生の受け入れを行っているが、管理さ

れた住居が無いため今後の課題として対策を検討する必要があると感じた。また、移住者の意思決定は比較的女性の意見が主張されるとのことで、女性受けするイベントや仕組み、女性目線での施策の構築が重要であり早期の対策の必要性を感じた。(佐伯)

関東地区からのU・Iターンの情報発信基地としての活躍頂いています。そこで感じたのは、仕事・定住・地域コミュニティ・観光資源情報等あらゆる安来市の情報発信が大切かつくづく思い責任を感じました。U・Iターンを意識づける為には、あらゆる情報を、インターネットから取得し、併せてここ東京事務所の定住支援を受ける為に最終県内の住まい地を納得する為の行為があると理解しました。それ故本市の職員は定住担当だけに任せるのではなく、各課担当がその職場で動かしている、又は新しい情報をホームページを駆使して全国に市全体での発信力がいかに重要であるか悟らされた訪問でした。(樋野)

島根への移住相談者はどこがいいのかは、すでに決めてこられる方が多く、そのうち6~7割の方がネットを見て来られるとのことで、安来市に移住者を増やしたいためには、検索のキーワードにヒットし易いサイトを立ち上げる必要があると指摘を受けた。また、移住のイベントに資金を使うより、移住を真剣に考えている方に、交通費に充てるなどの相談者目線での費用出費を考えるべきであるとの意見を伺った。多くの点で安来市が行う移住対策の不備を知ることとなった。現場の声を生かしこれからの政策提言に生かしていきたい。(三島)

2. 第10回日本自治創造学会 研究大会

●講 師：(株)日本総合研究所理事長 高橋進 氏

「人生100年時代の人作り革命」

NPO法人つくばアグリチャレンジ副代表理事 伊藤 文弥 氏

Co-Minkan 普及実行委員会共同代表・医師 横山 太郎 氏

NPO法人 Learning for All 代表理事 李 炯植 氏

総務省 井上 貴至 氏

(株)studio-L 代表取締役 山崎 亮 氏

パネルディスカッション 「若者たちの挑戦—人口減少社会の地域デザイン」

内閣官房長官衆議院議員 菅 義偉 氏

「人生100年時代の政府の取組」

中央大学名誉教授・(社)日本国づくり研究所理事長 佐々木 信夫 氏
「これからの日本をどうする」

国土交通省住宅局長 伊藤 明子 氏
「空き家対策と活用策」

元総務大臣衆議院議員 新藤義孝 氏
「日本の目指す道」

早稲田大学マニフェスト研究所顧問・元三重県知事 北川正恭 氏
「人口減と対峙する地方議会」

社会福祉法人佛子園理事長 雄谷 良成 氏
「ごちゃまかせ共生社会で創る日本の未来」

●場 所：明治大学アカデミーコモン棟 アカデミーホール

●概 要：人生 100 年時代のこれからの社会において、人口減少社会に向き合う地域社会が、どのような地域デザインをもってこの課題の解決に向かえば良いのかを 7 名の講師それぞれの見解を伺い色々な角度からその対策を勉強する。また、実践を行っている若手の活動をパネルディスカッション形式で発表を伺い今後の活動対策の参考とする。

●考 察： 最近よく使われている「人生 100 年時代」今回人口減少社会に向き合う地域社会でそれぞれ 7 人の講演とパネルディスカッションで地域デザインの実践を交えた様々な話が聞かれました。中でも、「人作り革命」での講演は目前に迫る 2025 年問題で、2020 年のオリンピックの終了と共に首都圏の人口が減少し団塊世代 700 万人のすべてが後期高齢者となり医療、介護費の急増は大波となって国家財政を直撃し、プライマリーバランスは悪化し続け、債務残高も 1000 兆超と膨大化している財政危機への対応をいかにすべきか、とのテーマで行われ、今こそ国と地方の役割分担の明確化をより求められた。国と地方の行政構造システムによる無駄遣いは 18 兆 9 千億円にも上りその額は消費税収分にもなると、さらに、過疎化に立ち向かう手段を国に託した地方の衰退は加速し続けていると言われ、解決策として現在の都道府県と市町村の事務事業（行政サービス）の一つ一つをどの行政体が事業主体としてベストかを分別する。そしてこれから始まるといわれる自治体の将来を国の関与、保護から首長と市民の力量に委ねることになると、今後残された時間にどれだけできるのかが、大いに心配であると言われていきます。（佐伯）

初日では、特にパネルディスカッションに参加された井上貴至氏（総務省職員で現在は愛媛県市町振興課長）が鹿児島県北西部に位置する長島町に出向されていた頃について発表された。経験から、行政に求められる役割が変化してきて、公共を全て行政で担う時代は限界にきている。企業や大学などのちからを生かすか、場づくりとしなやかさが大切である。その中で、大学など卒業後 10 年以内に地元に戻れば奨学金の返済を全て補填する「ぶり奨学金」や阪急交通社長島大陸支店の協力で国内ツアー旅行の中で、規格外のじゃがいもなどの未活用資源などを生かしたプロ提案と徹底した PDCA サイクルにてお客様満足度 1 位に向けた、地域発信力の向上策や役場のホームページで長島の求人を集めた。内容として田舎には仕事が無いと言われるが、うまく伝わっていないだけ。その為にもみんな SNS を駆使して見える化を模索した。など地域おこし・地域対策を新たな見直しで推進した。求人については隠岐・海士町が SNS を駆使して多くの I ターンに繋げた例もあり、また奨学金の返済に補填する制度確立など、他自治体に無いが I・U ターンを考える心に訴える独自施策が成功しているのではと感じ入った。

2 日目の国交省の伊藤局長の空き家対策には聞き入りました。我が国の人口は 2008 年頃をピークに減少傾向に入り、世帯数は 2015 年まで増加を続けていたものの、2023 年以降は世帯は減少に転じる。確かに安来市の現状は合併時から既に 6,000 人以上の人口が減少しているが、世帯数の増減は非常に少ない。それでも本市の空き家は増加している。国の推定する 2023 年以降の予測から判断するうえで、本市の空き家率は更に加速するだろうの読みになってしまう。全国の空き家の種類別の内訳では「賃貸用又は売却用の住宅」が 460 万戸と最も多いが、「その他の住宅」がこの 10 年で 1.5 倍の 212 万戸から 318 万戸と増え続け、20 年で 2.1 倍に達しているとありました。その為に国交省は様々な空家法・予算・税制などの空き家対策を打ち出している。また既存の住宅の活用案も整備していることが解りました。（樋野）

7 名の講師と 5 名によるパネルディスカッションの講演の内容は自論であったり、データ発表であったりと多岐にわたっていた。偏った意見もあり首をかしげることも多々あったが、それはそれで個人の意見として拝聴させていただいた。

そのような中で「ごちゃまぜ」の講演は活動の発表にとどまらず、心に感動を与えるものであった。おそらく参加した方々の大半が同じように感じたかと確信できる。

介護施設、授産施設、保育施設と地域集会所を一つにまとめた施設を中心に町づくりを行っている活動は、老若男女・健常者・障害者・要介護者全ての人間がまさに「ごちゃまぜ」で交流できる環境となっている。何より目を見張ったことは、介護や保育を障害者が主体となっておこない、職員は補助的な役割を担い前面に出てはこないというシステムを取り入れていることである。このことにより運営が難しくもあるが、普通の人では起こりえない奇跡を起こす結果となること（認知症の女性が肢体不自由の男の子に自分がプリンをあげなければ男の子が死んでしまうと主体的に施設に通い、その女性か

らプリンを食べさせてもらうためにそれまで60度しか回らなかった首が110度も回るようになった男の子、認知症になった母親が人の役に立ったことに感動をする家族)、全ての人が生きて喜びを感じていることには町づくりの基本中の基本を学ぶ機会となった。このような施策が安来市においてできるのかどうかは未知数であるが、安来市もすべての市民が生活することに喜びを感じられる町となるように、今後視察等を行いさらなる研究に努めたい課題となった。(三島)